

7. 駅利用者動線計画

7-1 JR高槻駅の現況及び課題

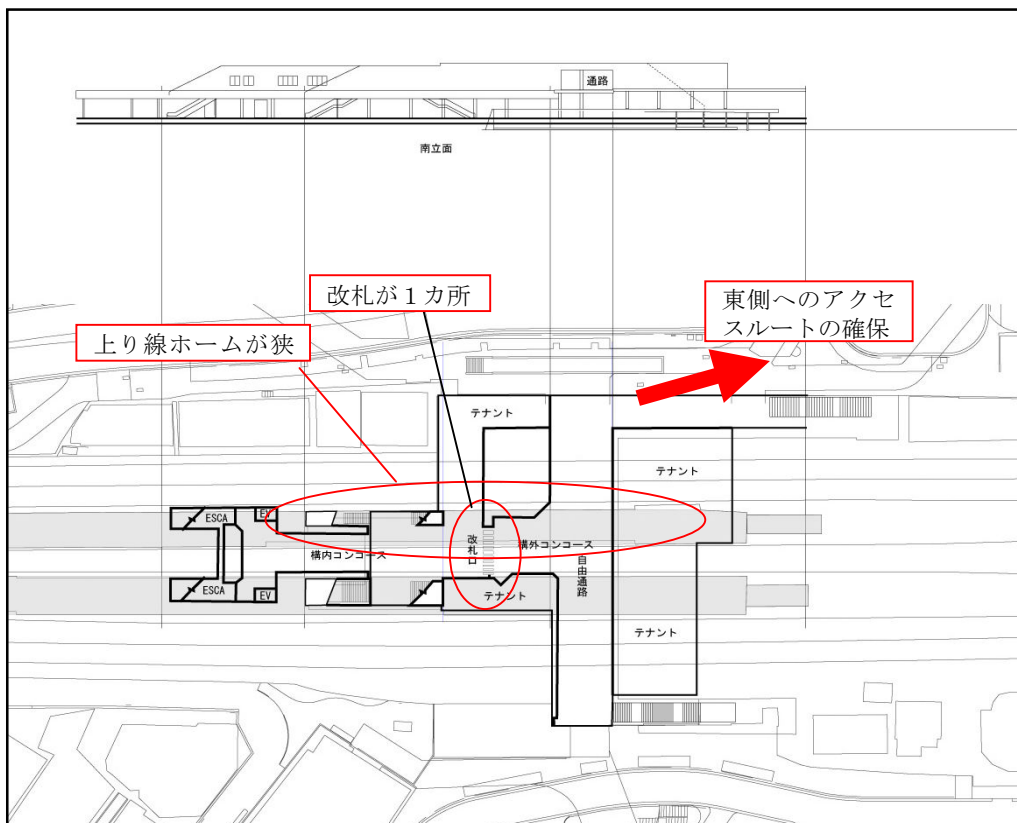
JR高槻駅北東地区の開発によって乗降客の増加が予想されるが、現在の高槻駅はいくつかの課題が挙げられる。

< JR高槻駅乗降客数 (H16年度) >

	平日	休日
口別乗車比率 (降車も同様)	中央口：85% 西口：15%	中央口：90% 西口：10%
平休乗車人員比率 (降車も同様)	100%	平日の約50%
平均乗降人員 (H16年度)	約12.3万人/日	

< 問題点及び課題 >

- ・上り線のホームが狭く階段も狭い。
- ・中央口の改札が1カ所(ラッチ数:10)であるためラッシュ時等では非常に混雑が予想される。
- ・駅の東側へのアクセスが増えるため駅出口から東側へのアクセスルートの確保が必要となる。



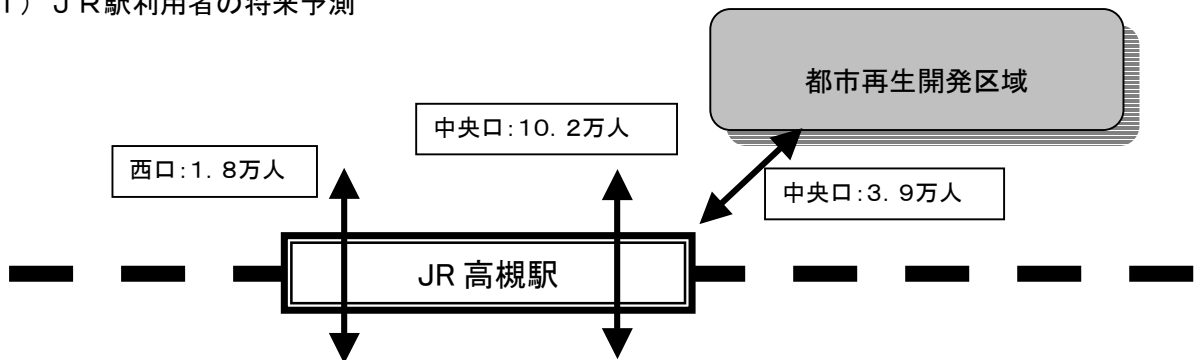
7-2 取組み方針

JR 駅整備にあたっての取組み方針を以下に示す。

- ①当該事業にあわせて、プラットフォームの狭小問題や駅利用者増への対応等の課題解決を図る。
- ②総合市民交流センターなど駅南側の活性化への起爆剤とする。
- ③事業者や関西大学とも協力しながら課題解決を図る。
- ④鉄道駅総合改善事業等の国の補助制度を活用する。

7-3 JR 駅利用者状況

(1) JR 駅利用者の将来予測



7-4 JR 駅整備の検討

(1) 整備案の検討

従来からのホームの拡幅案に加えて、乗降客の分散化を図るための検討が必要である。

参考に検討案を下記に示す。

項目	検討案 1	検討案 2
配置図		
整備内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ホーム東側(京都寄り)から自由通路へのルートを確認する ・改札口が増えることで改札機能の強化が図れる 	<ul style="list-style-type: none"> ・東側に新たな改札口を設けて出口を分散させる ・東側に出口を設け東へのアクセスルートを確認する
課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの東側への延長が必要 ・改札が2カ所になるが、自由通路の混雑が予想される ・東側の開発エリアへのアクセスルートの確保が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームの東側への延長が必要 ・新たな出口を設けるため大規模な改修が必要 ・駅南側の活性化に資するよう市民交流センターとの連携が必要

8. 今後の検討課題

J R 高槻駅北東地区の市街地整備の基本的方針は、前章までで一定の整理をしたが、整備計画策定に向けてさらに検討を深める必要がある。

なお、本報告から惹起された課題は次のとおりである。

(1) 事業手法について

- ・ 駅前広場の機能拡充や高槻駅前線の拡充により、市民にも愛され、中核市高槻の顔にふさわしい魅力ある都市空間の形成に向けて、環境面や景観面でのさらなる検討が必要である。
- ・ 事業の成立性として、最大のリスクとなる保留地や保留床の処分について今後さらなる検討が必要である。

(2) 道路整備について

- ・ 周辺地域での交通環境の改善について、市での対応策はもとより大阪府等関係機関との協議を引き続き努力する必要がある。
 - ＜市関係＞…………古曾部西冠線、西国街道線、弁天踏切歩道橋の整備
 - ＜府・国関係＞…………枚方高槻線、真上安満線、国道171号、芥川上の口線

(3) J R 高槻駅利用者動線について

- ・ JR 高槻駅の課題（プラットホームの狭小、利用者増対策、等）への対応策に関し、都市開発事業者等のスケジュールを念頭に、事業者や関西大学などとの協力のもと、JR 西日本等との協議を積極的に行っていく必要がある。
- ・ これらの検討に関し、JR 西日本を始めとする関係機関との検討会議を早期に設立する必要がある。